

ハンセン病問題のこと 正しく知っていますか？



語り合おう、
真実の話。

〈お問い合わせ〉

国立療養所 長島愛生園

〒701-4592 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6539番地
TEL 0869-25-0321 FAX 0869-25-1762
長島愛生園入所者自治会 TEL 0869-25-1033

岡山県保健医療部疾病感染症対策課
〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6
TEL 086-226-7331 FAX 086-226-7958
<http://www.hansen-okayama.jp/>

国立療養所 邑久光明園

〒701-4593 岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253番地
TEL 0869-25-0011 FAX 0869-25-1763
邑久光明園入所者自治会 TEL 0869-25-1278

監修 長島愛生園入所者自治会
邑久光明園入所者自治会

製作 (株)RSKプロビジョン

つなぎ合う明るい未来への絆
岡山県

あなたは国立のハンセン病療養所が
岡山県内に2つある事を知っていますか。
そしてハンセン病がどんな病気か
正しく知っていますか。



長島愛生園歴史館



邑久光明園社会交流会館

親や兄弟姉妹と離れ、名前を変え、生きている事、存在すらも消され、
生涯療養所の中に閉じこめられ、子どもをつくることは許されず、
死んでも故郷の墓に帰れない。

国の誤った政策のため今だに続く偏見・差別。

入所者やその家族は長い間、想像を絶する苦しみに耐えてきたのです。

伝えよう、
正しい知識

ハンセン病は長い間、誤解されてきました。

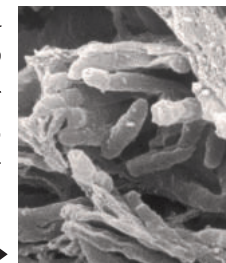
ハンセン病とは…

かつては「らい病」と呼ばれ、遺伝病と信じられていました。

1873年、ノルウェーの医師アルマウェル・ハンセンによって「らい菌」が発見され現在は彼の名をとって「ハンセン病」と呼ばれています。発病すると末梢神経がおかされ、知覚まひがおこり、温度や痛みを感じなくなります。その結果、やけどや怪我を繰り返し、手足や顔面が変形する後遺症が残りました。病状が進むと喉、鼻、眼、その他の被服から露出する部位が変形することから、偏見・

差別の対象になりやすかったのです。

らい菌の感染は、大量の菌と長期にわたって接触することにより初めて起こります。また感染しても発病に至ることはまれです。ハンセン病療養所の医師や職員でハンセン病を発病した例がないという事実が、このことを証明しています。



らい菌 ▶
写真提供：ハンセン病研究センター 松岡正典氏

いまは薬で治る病気です。

有効な治療薬がない時代は、「不治の病」といわれていました。明治時代以降は治療薬として大風子油が用いられていましたが、効果はあまり期待できませんでした。

1943年、アメリカで「プロミン」がハンセン病に劇的な治療効果をもつことが確認され、日本では第2次世界大戦後に治療に導入され、やがて全国の療養所で使用されました。

現在では、いくつかの飲み薬を組み合わせる多剤併用療法（MDT）が行われ、ハンセン病は

確実に治癒する病気となっています。

現在療養所で暮らしている方々は、ハンセン病は治癒しています。



たいふうしゆ
大風子油



プロミン



多剤併用療法
▲左：クロファジン製剤
中央：リファンピシン製剤
右：ダブゾン
1981年：WHO 提唱

偏見と差別が生んだ被害

昔は、天から受けた罰や報いの病とされたり、遺伝病だと誤解されていました。この病気にかかると、仕事もできず町屋の奥座敷や、農家の離れ小屋で世の中から隠れて暮らしました。

家族に迷惑がかかることを恐れ、放浪の旅に出る人々もありました。神社・仏閣の前で物ごいをする人もいました。

「らい菌」が発見され、非常に感染力の弱い菌であることがわかっていたにもかかわらず、住んでいた家を大がかりに消毒したり、強制的に患者を隔離するという政策を行い、「とても怖い病気では

ある」という誤った認識を人々に植え付けてしまいました。そのせいでハンセン病患者だけでなく、その家族たちも近所づきあいから疎外され、結婚や就職を拒まれたり、住み慣れた土地から引越を余儀なくされるなどの差別を受けました。



▲ 隔離、収容のようす

ハンセン病について正しく知り、偏見と差別を無くしていきましょう。

自由と尊厳の回復を求めて



写真提供：国立ハンセン病資料館



写真提供：山陽新聞社

■明治40年法律第11号 「癩予防二関スル件」制定

家を追われ、流浪の旅に出たハンセン病患者を、ハンセン病療養所に収容するための法律。救護者のいる患者は、対象にならなかったため、入所者は、ハンセン病患者全体の3.6%程度でした。

■「癩予防法」制定

「癩予防二関スル件」を改正・強化し、在宅患者も強制的に療養所に隔離されるようになりました。1930年代は、各県が競って患者を療養所に収容するという「無癩県運動」が広がります。

■「らい予防法」制定

「癩予防法」を改正した法律。入所者の代表で組織する全国国立らい療養所患者協議会の要望もむなし、3人の園長の証言が取り入れられ、強制入所、就学禁止、通告義務、外出禁止、所長の秩序維持規定などがそのまま残り成立します。

■「らい予防法」の廃止

「らい予防法」の見直しが遅れたことなどについて、厚生大臣が初めて謝罪しました。

星塚敬愛園、菊池恵楓園の入所者ら13人が熊本地裁に「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」を提起しました。

熊本地裁は、「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」で、原告勝訴の判決。「国は控訴せず。」と、内閣総理大臣が表明しました。

熊本県の温泉地のホテルが菊池恵楓園の入所者の宿泊を拒否し、深刻な人権問題としてクローズアップされました。

■「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」制定

元患者の社会復帰支援や名誉回復などを国に義務づけ、療養所の施設を住民や自治体が使え規定や、歴史的建造物の保存を通じ、正しい知識の普及を図ることなどが盛り込まれました。（翌年2009年施行）

熊本地裁は、「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟」で、国の責任を認め、内閣総理大臣は控訴しない旨を表明しました。

1873
(明治6)年

ノルウェーのハンセンが、らい菌を発見しました。



◀アルマウス・ハンセン



プロミンの注射風景
1953(昭和28)年ころ

近代以前の歴史

ハンセン病は人間の歴史が始まって以来、存在していました。「日本書紀」や「今昔物語」にも「らい」の記述が見られます。鎌倉時代には僧の忍性が奈良に日本最古の療養施設を開き、患者の救済をしたという記録が残されています。

しかし、日本がハンセン病を病として本格的に取り上げたのは明治になってからでした。外国人の神父や伝道師が献身的な治療院を設立する中、日本人はほとんど無関心でした。

アメリカのファジーが、プロミンのハンセン病に対する効果を発表しました。

「優生保護法」の対象にハンセン病も入った結果、入所者たちの断種手術が、合法化、強制されました。



◀架橋運動

■邑久光明園、長島愛生園 両園の入所者により長島 架橋促進委員会を設置

「人間回復の橋」を実現するため、架橋促進委員会が国、県、地元へ要請運動を展開しました。

■邑久長島大橋開通

隔離からの解放を象徴する橋が架橋促進委員会の運動や国、県、地元の協力により、16年の年月を経て開通しました。



■ハンセン病問題の検証 会議(厚生労働省より委託)

全国のハンセン病療養所を巡って26回に及ぶ検証会議が行われ、被害の実態が明らかになり、再発防止への提言が行われました。（2002年10月～2005年3月）



ハンセン病問題検証会議
最終報告書

■「ハンセン病問題の 解決の促進に関する法律」一部改正

「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟」判決の後、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が一部改正され、差別禁止や名誉回復、福祉増進などの諸規定の対象に「家族」が加えられました。

みんなで
ハンセン病問題
について正しく
学びましょう。



■近代の日本のハンセン病と「無癩県運動」

諸外国から患者を放置していることに対して非難をあびると、1907(明治40)年、「癩予防二関スル件」という法律をつくり、流浪する患者を療養所に入れ、社会から隔離しました。1931(昭和6)年には今までの法律を改正し「癩予防法」をつくり、在宅患者にも療養所への入所を強制化していきました。これによりハンセン病は感染力が強いという間違った考えが広まり、かえって偏見を大きくしてしまいました。各県が競ってハンセン病患者を見つけ出し、強制的に入所させるという「無癩県運動」も全国的に進められていきました。

日本でも1948(昭和23)年からプロミンが使用されて、ハンセン病は治る病気になりました。1951(昭和26)年、患者たちは全国国立らい療養所患者協議会(全患協)をつくり、法の改正を要求していきます。しかしながら1953(昭和28)年、「らい予防法」が成立、人権侵害ともいえる政策は強化され、その後43年もの間放置されました。

■ハンセン病問題は解決したのでしょうか？

1998(平成10)年、熊本地裁に「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」が提訴され、翌年には東京、岡山でも訴訟が起こりました。2001(平成13)年には熊本地裁で入所者らの原告が勝訴し、国は控訴しませんでした。また、2019(令和元)年には熊本地裁は「ハンセン病家族国家賠償請求訴訟」で、国の責任を認め、国は控訴しませんでした。

すでに「らい予防法」は廃止され、社会復帰のための対策も進んでおり、ハンセン病療養所入所者は自由に療養所の外で住むことができるようになっていますが、入所者の多くはすでに高齢となっていることもあり、療養所を退所する方はほとんどいません。

熊本県の温泉地のホテルがハンセン病療養所入所者の宿泊を拒否した事件など、いまだに偏見・差別が社会復帰や、地域との交流を阻む大きな壁となっています。

長島は困難と闘った人々の 歴史を伝える美しい島です。

国立療養所 長島愛生園

日本で最初の国立ハンセン病療養所として1930(昭和5)年、設立されました。



1931(昭和6)年3月27日、開拓患者と呼ばれる85名の患者が、光田健輔園長他職員3名と共に、地元住民の反対や混乱を防ぐために、大阪から海路を経て上陸しました。



十坪住宅の建築 1932(昭和7)年～1944(昭和19)年
入所者の急増により、民間からの寄付金で143棟が建設されました。主に建築作業は入所者によるものでした。



療養所で亡くなられた入所者3,803名、納骨堂では職員等を含む合祀者3,857柱をお祀りしています。
(令和7年6月1日現在)

長島愛生園 納骨堂

初代の納骨堂は作業の一環として、入所者たち自らの手によって建設されました。他にも一朗道や恵の鐘、恩賜記念館など、長島愛生園には入所者により造られた施設が現存します。



盲導鈴(長島愛生園)

視覚に障害のある入所者のために、道の要所に鈴を設置していました。

長島愛生園

邑久長島大橋

22m

橋が架かるまでは、潮流の激しいわずか22mの海峡が患者を社会から隔絶し、苦しめました。



邑久光明園

国立療養所 邑久光明園

1909(明治42)年に、大阪府に設立された「外島保養院」が室戸台風で壊滅し、1938(昭和13)年、長島に再建されました。



荒れ狂う濁流の中、病棟の入所者を助け、ついに力つきて亡くなった、中野看護婦長。

邑久長島大橋『人間回復の橋』

長い間世間から隔絶され、離島だった長島に1988(昭和63)年、入所者たちの強い要望で橋が架けられました。この邑久長島大橋はハンセン病療養所と社会を一本の道でつなぐことになり、「人間回復の橋」と呼ばれています。



入所者を救うため「寒霞渓丸」で駆けつけた大島青松園の救護班。この後、入所者100名は大島青松園と長島愛生園に輸送されました。



園内通貨(邑久光

明園)
逃走を避けるため
でしか使用できな
1938(昭和13)年

明園)
に使われた、園内
通貨でした。
～1954(昭和29)年



監禁室(邑久光明園)

厳しい園の規則を破った人や、逃走した人々が監禁されました。
1939(昭和14)年～1951(昭和26)年

邑久光明園 納骨堂

周りから受ける偏見・差別への恐れから遺骨の引き取り手もなく、亡くなられてもなお故郷に帰れない多くの人々の遺骨が納められています。



療養所(外島保養院含む)で亡くなられた入所者3,261名、このうち3,105柱を納骨堂でお祀りしています。
(令和7年6月1日現在)

心の叫びを聞こう！

おかあちゃん

小学四年

わたしはよるねるとき、おかあちゃんのことをおいのりして、ねます。そしてまたふとんをかぶってねるときにまたおかあちゃんのことをおもいだします。

そうすると、めからなみだがでてきます。おかあちゃんもきつとおもいだして、わたしとおなじようになんていてくれるとおもいます。

いまごろは、おかあちゃん、なにをしているだろうなと思うこともあります。わたしはおかあちゃんが元気であるように、こんやもいっています。

海

中学一年

さんばしへ行って海をみた
冷たい風が
私のほおをなでていく
むこうの方をみると
青い青い海が
ずっと向うまでひろがっている
その青い海が太陽に照らされて
きらきらまばゆく
かがやいている
私はこの海を
どこまでもいけば
母のいる土地へいけるのだな
と心の中でつぶやいた

波

中学二年

お前はいつも元気だね
白い顔に青い体で
元氣一ぱい寄せてくる
僕はお前が大好きだ
どこへでも自由に行ける
お前はいいな——
僕も早くどこへでも自由に行けるような体になりたい
そうなれば僕は一番に
お母さんや弟の所に
寄せて行くだろう

友だち

尋常小学六年

てすりに
もたれている友
目かくし
しように思って
そつと
後にまわったら
手紙をもって
泣いていた。

雨降り

尋常小学六年

雨が降るたび
母さまは
お「豆」をいって
くれました
「豆」をいるよな
雨の音
母と別れて
聞いてます

散歩

中学一年

あんまり淋しかったので、
私は一人で散歩に出た。どこを
どう歩いたのか分からないう
ちに、海岸に来ていた。砂浜に
腰を下しながら向うの海を
見ると、月の光に美しく光って
いる。私はいつの間にか故里の
ことを思い浮かべていた。今頃
母は何をしているだろうかと
思うと悲しくなってきた。
つぎつぎに懐かしい思い出を
たどっていると、いつか涙が
出る。私はたまらなくなつて、
「お母さん」と大きな声で呼んで
みた。答えがあるはずはない。
波が静かに寄せる音がする
だけだった。私は淋しさをま
ぎらすために、月見草を摘ん
では海に投げた。小石を拾っ
ては投げた。
でもさびしさは私の胸ふか
くこびりついて、どうにもな
らない。かえって益々さびし
くなるばかりである。漁火も
さびしげに揺れていた。月も
さびしげに私を照らしている
ようだった。私はいつまでも
いつまでも月を見ていた。



望ヶ丘少年舎

長島愛生園の少年少女舎。多い時には100名の少年少女がいて、愛生学園(小・中学校)へ通っていました。「お父さん、お母さん」と呼ばれる入所者の世話人がいました。

1937(昭和12)年頃



当時の子どもたちの様子

1959(昭和34)年頃

愛生園



双葉寮

邑久光明園の少年少女舎。常時30~40名が共同生活をしていて、光明学園(小・中学校)へ登校、下校後は奉仕活動、雑務、余暇などで過ごし、夕食後に勉強や手紙を書いたりする生活でした。

昭和20年代



当時の子どもたちの様子

昭和20年代

光明園



新良田教室

岡山県立邑久高等学校新良田教室。全国のハンセン病療養所の中で唯一の入所者のための高等学校でした。32年間で307人の生徒が巣立っていきました。



新良田教室へ通学する生徒たち

消毒 一九六三昭和三八年 男子

先生の白いガウンやお金を消毒して窓にはりつけることには、当然のことであると一応頭の中では理屈としてわかっていて、それで心の中に生まれてくる反発はどうしようもありません。先生と生徒、その上に患者と健康者という二重のみぞがあつて、ぼくたちと先生をきりはなしているようです。このみぞは科学がさらに進歩して、ハンセン氏病に対する認識が変化するときまで続くだろうと思えます。先生とぼくも力を合わせて必要以上の警戒心や恐怖感を取りのぞく努力をして行く必要があります。

寄宿舎 一九六二昭和三七七年 男子

時々参観者と話しをしても我々の生活面などをみて楽しそうなので驚いたとか、又、ここに来る途中で一般舎で笑い声をきいてびっくりしたとか、我々は毎日、色々の生活をしているだろうと予測しているときいて、自分は悲しくなります。そんな時、自分達は貴方達と同じ生活をしているとさげびたくなってくる。これなども前々からの偏見があるように思われる。

死んでも故郷に帰れない遺骨



邑久光明園
南 龍一 さん

去年、親父の骨探しをしました。私が10歳の時、親父は自殺しました。「このくそたれ奴、お前さえないなければ、俺は何時でも死んでやるんだが・・・。」と暗い顔で父に言われる度、寂しい思いでたまりませんでした。親戚たちはお前の病気のせいだ。」と言う者もいました。この年になつて親が哀れになり、余りの遺骨が見つければ墓でもたてようかという気になったからです。大和高田にある無縁仏の納骨堂で700全部調べましたが、見つかりませんでした。

邑久光明園の納骨堂には、現在3040の遺骨が、きちんと記録整理され納められています。血のつながった引き取り手がいいるはずなのに取りに来てももらえない、無縁仏のこれらの遺骨は全国の療養所に2万4000あり、これから亡くなつていく人の数も入れると3万近くになります。「家族のために死んでくれ。」とか「家に帰つて来るな。」と親からも言われ、どうして故郷に帰ることなく、ここで寂しく死んで行かねばならなかったのか！ 親の骨探しと重なり虚しさを感じます。

裁判や医学的に決着がついたといつても、熊本のホテル宿泊拒否のような問題がまだ社会に残っています。生きている人はもちろん、納骨堂に入っている仏様も、帰るべき場所に帰してあげないと、ハンセン病問題は本当の意味で解決したとは言えません。



語り部の声

耳を傾けて、心に刻もう。

本名も故郷も家族も捨てて



長島愛生園
池内 謙次郎 さん

この島へは母親と3才の弟とおばあさんが付いて来たけれど、自分だけが治療棟へ連れていかれ、逃走に関するものはお金や米、懐中電灯など全て取り上げられました。

クレゾールの入った風呂に入れられ、使用目的を告げないで、裸の写真をも女も撮られました。風呂から出ると縦じまの紺の服をもらつてその日の内に入園番号をもらいました。今から思えば、囚人と同じ扱いでした。

付き添いは患者の中でも軽症の人がしていましたが、その人から「入園者の90%以上は本名を捨ててひっそりと暮らしている。お前も名前を捨てて暮らした方がいい。」と言われびっくりして、その晩はごはんも食べられないほどのショックを受けました。

当時は懲戒検束権といつて、園長に処罰権が与えられていました。家族から生活のこと、子どもの学校のことなどの手紙が来ると心配で「帰らせてほしい」と願ひ出るが、かなえられず逃走する人もいました。捕まると独房に入れられました。小さなくぐり戸を入ると、薄暗い中には今日が何日か分からないから暦のようなものも書かれ、家族のこと、何をしたくて逃走したかがつらい叫びのように書かれてました。その間は、食事も満足に与えられず、外への散歩も治療もなかったそうです。家族に会いたがための行動を、園としては島に隔離し逃走させないという理由で厳しく処罰していました。

もっと早く法律が改正されていたら、皆さんと同じように生活ができたと思います。

全国の入所者の心の叫びを集めた神谷書庫



長島愛生園
双見 美智子 さん

昭和23年、夫と10カ月の子

どもと一緒に療養所で診察を受けました。私だけが感染しているということで一人島に残りました。

夫はまだ39才、早く再婚させたほうがいいと思い、離婚請求の手紙を出してもなく、夫が面会に来ることがわかりました。イチジクが好きだったから、もらったイチジクを大切にしておきました。私は浜辺に腰をおろし夫に「すわったら。」と言ったんですが、ずっと1メートルくらい離れて立ったままでした。「結婚生活7～8年あったのにこの1メートルは何なんだろうか」と思いながら、イチジクを渡したら、腰をおろしてイチジクをむいて食べたんです。そのあと、「島で物を食べたと言ったら、母さんはなんていうだろうなあ」とぼそつと言ったんですよ。それを聞いた時、「ああ、もう帰るところはないんだなあ・・・。」と思いました。それで、私からはっきりと離婚してくださいと言いました。そして、ひとしれず浜辺で泣きました。人の一生の中には、自分ではどうしようもない運命があるんだと知りました。

そんな時に出会ったのが神谷先生でした。先生の没後、弔慰金で建てた神谷書庫を任されました。子どもも大人も家族や故郷や社会から離されここへ来ました。不安で孤独で、地獄へ堕ちた気持ちでした。けれど、何年かたってみんな明るく生きています。そうなるまでの心の軌跡や想いが正直に表現されているのは機関誌であると思い、その整理を始めました。私に付いたあだ名は「引き出しババア」。入園者たちの自分誌も全部きちんと納めた、心の叫びのつまった書庫です。

発病から今に至るまで



長島愛生園
石田 雅男 さん

10才の頃、床屋に散髪に行った事がきっかけで「らい」であると宣言されました。家族から離れ、汽車に乗せられ貨車から降ろされ、やつとの思いで島にたどり着きました。

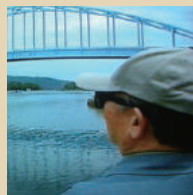
ある日、重箱いっぱい食べ物をつめて両親が面会に来てくれました。園の夕食のさつまいもを握りしめ、巻寿司を食いあさるように食べるのを見た父は「雅男はそんなにさつまいもが好きか？」と驚き、私は「これは僕の晩御飯だ」と答えたんです。のちに、父が亡くなって、母から「あの時から、おとうさんはまともなご飯をたべなかった。」と聞

かされました。希望も前途もない、すさんだ療養生活でしたが、自分を心配し、愛してくれる親の為にまつとうに生きていかなければと、そう思ったのが30才半ばでした。

近頃、子どもさんたちにハンセン病の話をする機会があります。その中の一人が「石田さんの話を聴いて、家でハンセン病についてどう思っているのかとお母さんに聞いたら、『伝染病だから近付いたらだめ。』と答えた。私は『ハンセン病は治る病気でも、もううつらない。』と話しました」と。また、ある子は「『ぼくがハンセン病になったらどうする？』と両親に聞いたら『残念だが、離れて暮らさなければならぬ。』と言われ『それは違う。』と答えた」と知らせてくれました。

私は、地方自治体から市町村、ふるさとのすみずみに至るまでハンセン病のことを正しく理解していただきたいと思っています。また、小学校、中学校の学校教育の場でもハンセン病の学習を必ずしていただきたいと心から願っています。

邑久長島大橋がつないだもの



邑久光明園
望月 拓郎 さん

本土とこの島は最短距離で30mしか離れていません。しかし、この海峡は潮の流れが速く、泳いで渡ろうとして亡くなった人もいます。天然の障壁、隔離の島でありました。

昭和45年にせめて歩道橋でよいから渡れるようにできないかという話がでた翌年、愛生園と合同で架橋促進委員会をつくりました。ところが、なかなかこの運動が進展しませんでした。橋の一方は県道、もう一方は国有地のため、公共事業にはなじまないとのことでした。厚生省予算としては、各園から施設整備の要求がでている。橋どころの話じゃあないと。でもとにかく、毎年々両園の架橋委員会の代表が国と国会に陳情をかけたんです。

昭和55年に大規模な陳情団を編成し、岡山から厚生省にのりこみ、強く要請活動をしました。その結果、当時の園田厚生大臣が、「ハンセン病に隔離は必要じゃないんだという証として橋をつくらうじゃないか」と、言明したんです。これは非常に大きな発言でした。昭和60年に鉄入れ式をして63年の5月9日に開通式を迎えました。

それまで火災・台風などの非常時に、島外から消防車が来てくれなかった。自衛消防組織が必然で、それも入園者の高齢化現象で難しくなり、もうぎりぎりのところだった。

橋ができたおかげで邑久町の消防車、地元虫明の消防団が来てくれる。緊急の手術を要する場合、岡山の病院に入院治療ができる。ハンセン病に対する偏見のため、いろんな乗り物に乗車拒否された事は辛い記憶ですが、今では園内を路線バスが走っています。橋ができて路線バスに自由に乗れるし、園を訪れる人も多くなった。ああ、良くなったなあ、解放されたなあ、とつくづく感じますねえ。

私の社会復帰を支えてくれたもの



長島愛生園
川島 保 さん

長島にはハンセン病患者のための、唯一の高等学校、岡山県立邑久高等学校新良田教室があった。昭和38年、一期生の同窓会に出席した時、卒業と同時に大阪に出て働いていたY君が「僕がしている仕事だったら、あんたもできるよ！大阪に出ておいでよ。」と熱心な励ましをくれた。これは何よりもうれしい言葉だった。

昭和45年、万博が開催され好景気に沸く大阪に出て、Y君の言っていたあの仕事「タクシーの配車係求む。」という求人欄に飛びついた。療養所に居た事を隠し面接をのり切るために、あれやこれや繰り返し心の中で練習した。後ろめたさと緊張で張り裂けそうな心をよそに、面接は短時間で終わり、生きがいのある大阪での生活が始まった。

しかし5年目の梅雨明けの頃、公衆浴場で熱湯が漏れているのがわからず、右足裏を大火傷してしまい、園に戻る事となった。

社会復帰中断の悔しさとその時感じていた、「感染症としては医学的に治癒している人々が、なぜ法で隔離されなければならないのか。」という疑問と憤りを明らかにするために「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟の原告となった。判決は多くの支援を得て、国の謝罪と共に、社会に出て生活したい人には生活支援金が出る事になった。私はもう一度この制度を活かすために大阪に出る決心をした。

今私は、地域の人に密着し自分の歩んで来た人生をその中で活かすことで、過去の国の過ちを訴えて行こうと思っている。

いま、こんな取組をおこなっています。

偏見や差別をなくすため



スマートフォン等でも見やすくなりました



邑久光明園
屋 猛司さんのストーリー



長島愛生園
石田雅夫さんのストーリー

▲おかやまハンセン病啓発WEBから
<http://www.hansen-okayama.jp/>



▲ハンセン病問題啓発パネルの説明



岡山県では療養所入所者、療養所の園長、県の関係課長等から構成する「岡山県ハンセン病問題対策協議会」で協議を行いながら様々な事業を展開しています。

また、県民のハンセン病についての意識調査を行い、施策の方向性を決める参考としています。

ハンセン病の歴史や現状を正しく理解してもらうために、県が制作したDVDやパンフレット、パネルなどの啓発資材の活用を図っています。そしてハンセン病に関心を持ち、より詳しくハンセン病について知りたいと思った方のために、おかやまハンセン病啓発WEB「みんなで描くひとつの道」を公開しています。

同じ間違いを繰り返さないため

県や市町村、療養所などに残る資料を調査・収集して、かつてのハンセン病対策を振り返り、後世に伝えていくための資料集を刊行しています。



※岡山県立図書館にて視聴、貸し出しをしています。

①、②のDVD購入をご希望の方は、
(株)RSKプロビジョンTEL086-201-5067までお問い合わせください。

■啓発DVD

- ①「ハンセン病を正しく理解するために」
・ハンセン病全般がわかる啓発DVD(29分)
・語り部証言集(12名:157分)
- ②「今、わたしたちができること」
・小・中・高校生向けハンセン病啓発DVD(14分)
- ③「未来への絆 ~ハンセン病問題から学ぶ~」
・ハンセン病全般がわかる啓発DVD(32分)
- ④「語り部講演映像」
・4名の語り部講演映像の啓発DVD(136分)
・講演原稿付属資料CD(PDFファイル)

アニメーションを公開しています

地域との交流をすすめるために

現在、療養所で生活している方々は、ハンセン病自体は治っていますが、手足の障害や失明などの後遺症がある上に高齢化も進み、多くの方が療養所を離れて生活することは難しい状況です。

一方、岡山県は地域との交流を促進するため

療養所の訪問交流などを実施した団体への補助事業などを行っています。

また、イベントや催し物への参加、陶芸や絵画などの趣味を通じた交流活動も行われています。



陶芸教室 ▲



ボランティアとの会話 ▲



地域参加の納涼夏祭り ▲



ハンセン病問題を考える市民の集い ▲



1989(平成元年)年11月1日 園内にバス路線が開通 ▲



ボランティアガイドによる案内 ▲



小学生との交流 ▲

今、わたしたちにできることは、ハンセン病について正しく理解し、それをまわりの人に伝えて偏見・差別をなくしていくことです。そして、ハンセン病回復者やその家族の方々が安心して生活できるよう、温かい支援の輪を広げていくことです。

ハンセン病問題に学ぶ

一人ひとりを大切に、私たちにできること

「いじめ」による自殺が大きな問題となっています。誰か特定の一人を集団から排除し、孤立した一人を標的にした「いじめ」がエスカレートして深刻な事態となっているのです。社会からの「排除」と「孤立」は、人権問題を考えるうえで重要なキーワードです。いま、女性・子ども・高齢者・障害のある人などに対する人権侵害や、インターネットを悪用した書き込みが後を絶たないなど、人権問題は複雑・多様化してきています。私たち一人ひとりが、排除されたり孤立させられたりした状況に思いを寄せ、人権を尊重した生き方を身につけたいものです。

長島愛生園・邑久光明園は、地域との交流を進めるとともにハンセン病問題を通して人権に関する知的理解を深め、人権感覚を身につける場となっています。



▲多発するいじめ問題を取り上げる新聞記事
写真提供：山陽新聞社

生徒たちの感想

(語り部講演会・交流事業の参加者)

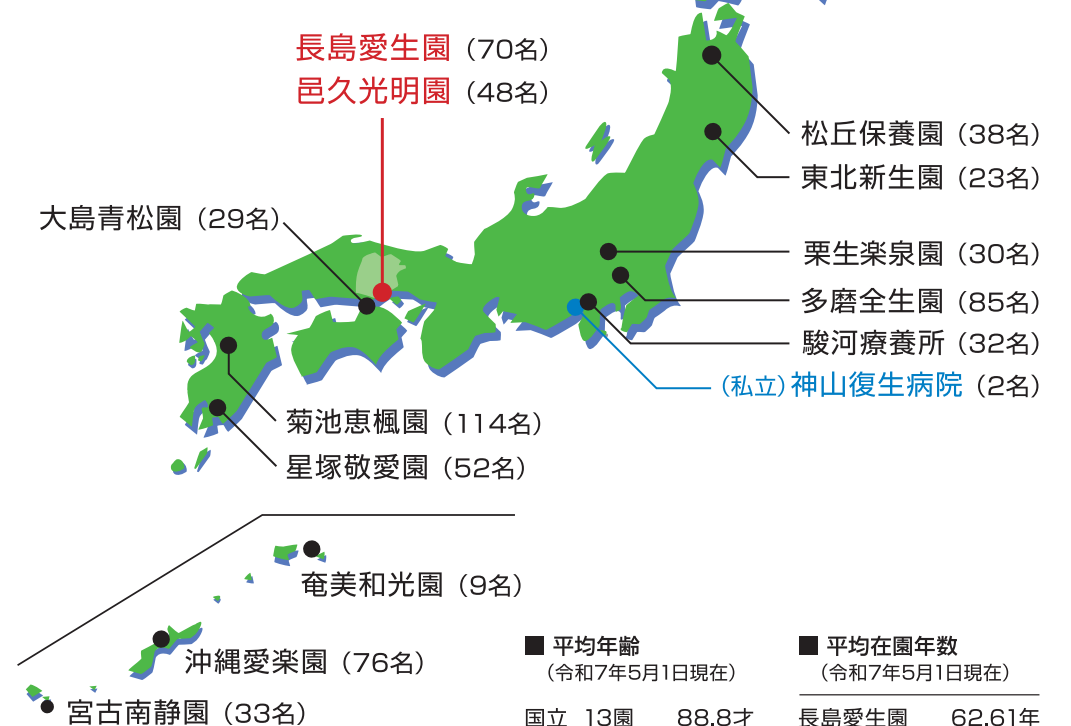
- お話を聞いて、家で家族と話し合いました。(小学5,6年生)
- みんなで人権が大切にされる社会をつくりたいです。(小学5,6年生)
- 友達を仲間はずれにしたり、いじめたりする身近な差別をしないように意識しようと思います。(小学6年生)
- 私たちにできる偏見や差別を防ぐ方法は、正しいことを理解すること、間違った情報を言っている人に正しい情報を教えてあげることだと思います。偏見や差別が少しでもなくなる社会にしていきたいです。(中学1年生)
- 一つしかない大切な命を大切に大切に生きていこうと思いました。人間の心、命の大切さについて知ることができました。(中学1年生)
- (邑久長島大橋について) 諦めずに訴えたことで、人と人との心を結ぶ橋がかかったのだと思いました。病気によって悪いことばかりではなく、人々の優しさに気づけたとお話を聞き、「人権」と「尊厳」を大切に、優しい心を持って人を大切にできる人になりたいと思いました。聞いた話をずっと受け継いで、次の世代へとつなぎ、二度と同じことをくり返さないようにしていきたいと思いました。(中学2年生)
- 治る病気になってからも隔離政策は続いていたと知って心苦しくなった。正しく理解することで差別や偏見がなくなっていくと思う。正しく理解するためには関心を持たないといけないと分かった。(中学2年生)
- 差別や偏見はいけないことだと分かっているが、自分が当事者となったとき、どのように対応すればいいのだろうかと考えさせられた。(高校1年生)
- 平和な今の時代だからこそ、人権問題について真剣に向き合わなければと思いました。子どもたちにもよい経験になったと思う。(保護者)

いじめや差別
をなくすことが
大切です！



■全国のハンセン病療養所

※国立が13か所、私立が1か所
()内は令和7年5月1日現在の入所者数



平均年齢 (令和7年5月1日現在)		平均在園年数 (令和7年5月1日現在)	
国立 13園	88.8才	長島愛生園	62.61年
長島愛生園	89.0才	邑久光明園	62.31年
邑久光明園	89.9才		

園内見学のお問い合わせ・申し込み先

国立療養所
長島愛生園

TEL 0869-25-0321 (代表)



長島愛生園 歴史館

TEL 0869-25-2212 (ダイレクトイン 内線541)



国立療養所
邑久光明園

TEL 0869-25-0011 (代表)



岡山県の地域交流事業(補助金)に関するお問い合わせ・申し込み先

岡山県保健医療部
疾病感染症対策課感染症対策班
TEL 086-226-7331 (直通)
おかやまハンセン病啓発WEB(岡山県の取組)

